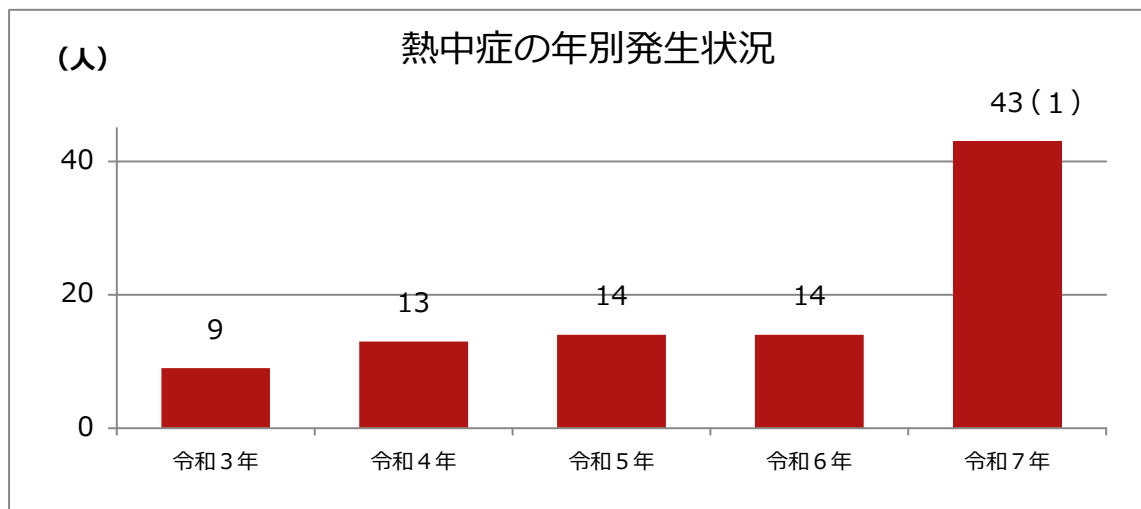


職場における熱中症による労働災害発生状況（群馬労働局管内）

1. 発生状況の年別推移

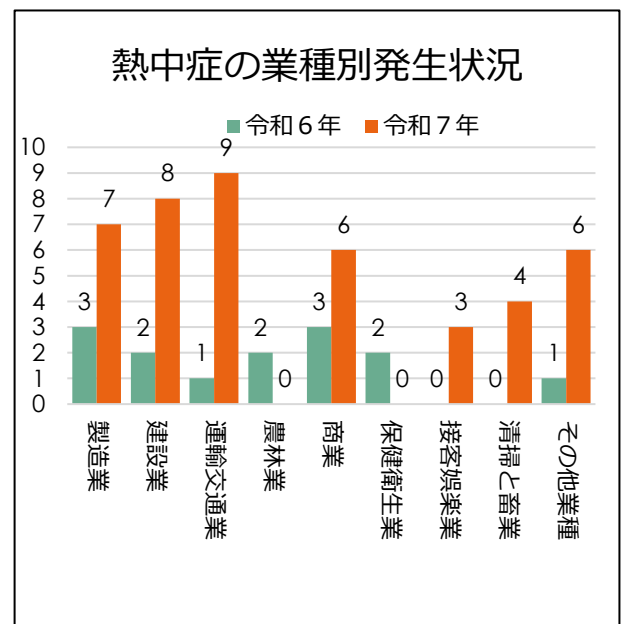


熱中症による令和7年の労働災害の発生件数は、43 人（うち死亡1人）で前年比約3倍と統計を取り始めた2005年以降最多となりました。

死亡災害は、産業廃棄物処理業において40歳代の労働者が亡くなっています。（群馬県内で熱中症による死亡災害が発生したのは平成26年以来）

2. 令和6年・令和7年の業種別発生状況

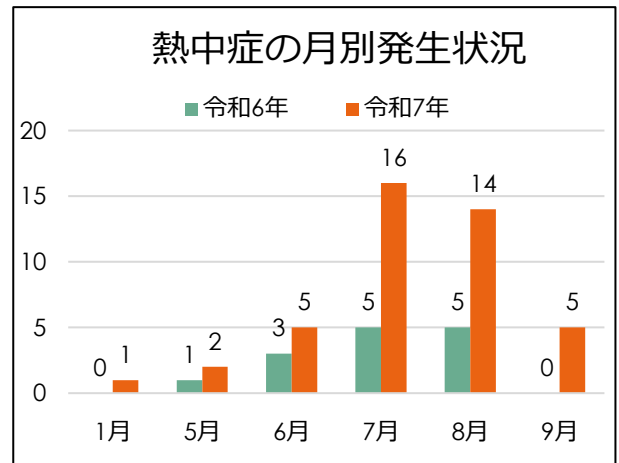
年別 業種別	令和6年	令和7年	総計
製造業	3	7	10
建設業	2	8	10
運輸交通業	1	9	10
農林業	2	0	2
商業	3	6	9
保健衛生業	2	0	2
接客娯楽業	0	3	3
清掃と畜業	0	4(1)	4(1)
その他業種	1	6	7
総計	14	43	57



近年は、炎天下の屋外だけでなく屋内でも熱中症を発症していますので、リスクを正しく見積もり、リスク低減措置を適切に行う必要があります。

3. 令和6年・令和7年の月別発生状況

年別 月別	令和6年	令和7年	総計
1月		1	1
5月	1	2	3
6月	3	5	8
7月	5	16	21
8月	5	14	19
9月		5	5
総計	14	43	57

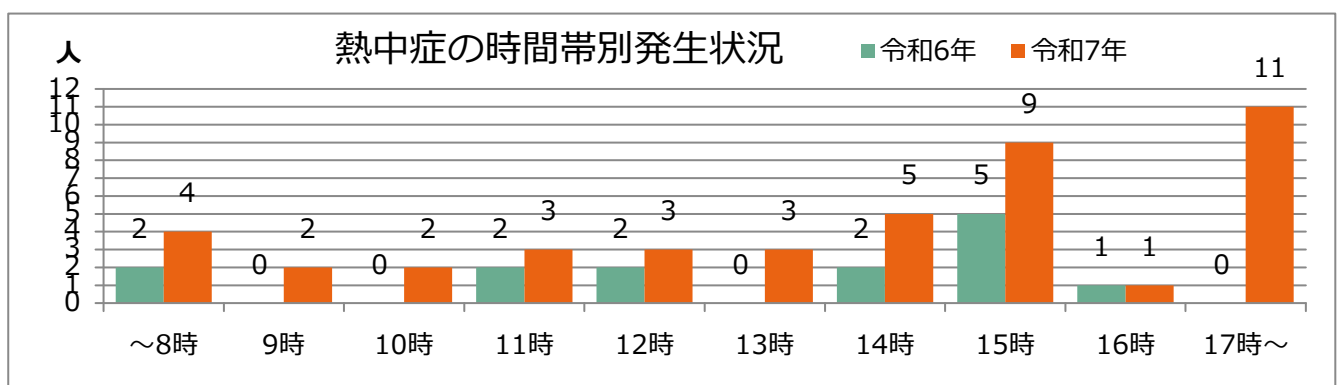


梅雨から夏季の時期は高温多湿となるため、暑熱順化（体が暑さに慣れること）が不十分な状態だと熱中症の発生リスクを高めます。

猛暑日が増加する7月と8月は熱中症が多発しています。

4. 令和6年・令和7年の発生時間帯別発生状況

発生 時間帯別	～8時台	9時台	10時台	11時台	12時台	13時台	14時台	15時台	16時台	17時台～
令和6年	2	0	0	2	2	0	2	5	1	0
令和7年	4	2	2	3	3	3	5	9	1	11

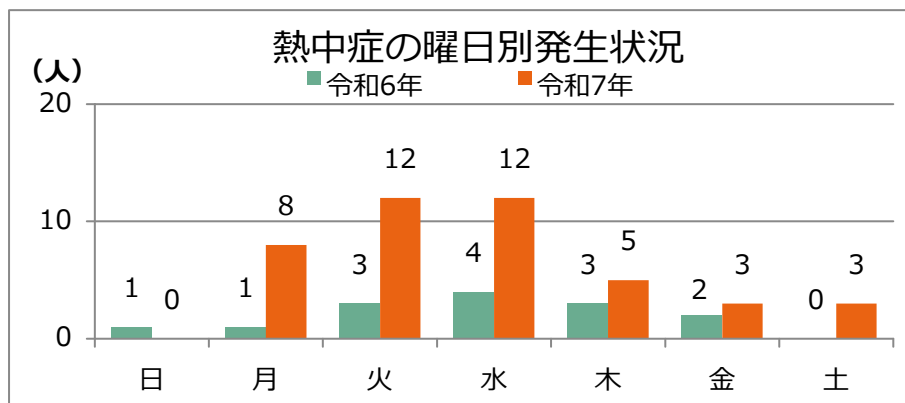


熱中症の症状が出現する時間帯は様々です。

熱中症は当日の体調、気温、湿度、通風、作業強度、服装、休憩時間、水分と塩分補給などが複合的に作用し発症しますので、最も気温の上がる14時から15時ごろや終業後や就寝前なども注意が必要です。

5. 令和6年・令和7年の曜日別発生状況

曜日別	日	月	火	水	木	金	土	総計
令和6年	1	1	3	4	3	2	0	14
令和7年	0	8	12	12	5	3	3	43



土日に仕事が休みの場合、暑熱順化がリセットされてしまう可能性があるため、週の前半は発症リスクが高まっています。